

論説

2023-1-12

1/12 木

警戒感が薄れてないか

コロナ第3波

新型コロナウイルス感染症の死者数が急増している。一日五百人在院患者数も著しく新規した。行動制限のない年末年始を過越し、警戒感が薄れていないか。第八波を抑え込むため、必要な場面でのマスク着用や手洗い、大人教での飲食回避など対策を徹底したい。

新規コロナの死者数は累計で六万人を越え、「さうか」万人が「の二カ月余りで死」しそう。感染による持病悪化や体力低下で「せいた高齢者が多い」。

新規感染者数は昨夏の第七波を下回ったが、流行の規模が第7波より小さかった驚きの事実だ。新規感染者の全数把握の手段が見直され、感染者数を正確に把握していないのが原因だ。

露呈率から正規八波の感染者数は第七波を上回るとの指摘も出ている。感染者数が増えれば死亡者数も増えた。油断は禁物だ。

医療機関が逼迫している地域もあり、患者集中で救急搬送が困難となり、冠の医療患者の医療にも影響が出ていく。

行動制限しない政府対応が、流行状況を過小評価させではないのか。政府は国民に対する信頼度を強め、危機感を共有すべきだ。

ゼロコロナ政策を見直し、感染が拡大してゆく中国では新たな変異株出現も懸念される。これからも中国には差別的対応ではないと理解を求める必要がある。

世界保健機関（WHO）は中国政府が発表する感染状況は実態を正確に反映していないとしている。日本政府は昨年末、中国からの入国者に対する水際対策を強化した。監視の目を緩めず、反対する中止はは差別的対応ではないと理解を求める必要がある。

米国ではコロナ株の新たな系統「アリバ・1・0」が増加し、流行の主流になりつつある。感染度の度合は不明だが、従来の系統に比べ感染が広がりやすいとみられる。分析を正確に進める対策を講じなければならない。

政府はコロナに感染しても重症リスクの低い人は自分で検査し、陽性なら自己で療養するよう求めている。学習伴インフルエンザも全国的に流行期に入った。

最も重要なことは、患者集中で医療が逼迫し、教える命を救えないがる事態が避けねばならぬ。自分自身が、感染者数の増加を抑えるためにも油断せず、マスク着用など必要な対策を続けてい。